航空自衛隊 航空支援集団

航空支援集団

航空自衛隊の骨幹組織改編により、平成元年3月16日に新編された創設20年になる支援機能を総合した組織。司令部の他、航空救難機能（航空救難団〈ヘリ空輸隊は輸送機能〉）・輸送機能（第1、2、3輸送航空隊・特別航空輸送隊）・航空保安管制機能（航空保安管制群）・航空気象機能（航空気象群）・飛行点検機能（飛行点検隊）の5機能8個部隊で編成。部隊の所在地は北海道から沖縄まで21カ所に点在している。

航空支援集団司令部庁舎

航空支援集団司令官
空将　森下　一

―航空支援集団は、本年3月に創立20周年を迎えられました。おめでとうございます。早速ですが、航空支援集団の特色としてはどのような事があげられますか？

司令官　航空支援集団というのは、救難・航空輸送、管制、気象、点検の5つの機能があります。8つの直轄部隊を有していますが、概括すると比較的小さな規模の部隊が全国各地に展開しているということです。そして、少数機や少人数で持機を継続したり、24時間勤務を続けていることです。また、有事だけでなく平時から与えられた任務を遂行しているのが、航空支援集団の大きな特色です。

―司令官は3月に着任されたんですね。感想はどうでしょうか。

司令官　航空支援集団が発足して20年、自分としてはそういう節目のときに着任することができ光栄に思っております。航空支援集団は非常に重要な役割を担っているので、その重責を強く感じているところです。

―司令官の座右の銘は何でしょうか？

司令官　座右の銘というほどではありませんが、私達は色々な基地を転勤して回ったりするので、様々な人との出会いがあります。また、すぐに転勤したりして別れを迎えたりします。その意味でも「一期一会」。人との出会いを大切にし、人との接し方にも真心を大切にしていきたいというのが信条です。北は北海道から南は沖縄まで全国で勤務しましたが、本当に人との出会いというものは大切だなと痛感しています。

―航空支援集団は全国各地で活躍しているので司令部以外の隊員さんとお会いすることはなかなか大変そうですが、指揮・統率方針どのようなことを挙げられているのでしょうか？

司令官　8つの直轄部隊がそれぞれ異なった特色のある機能を持ち、任務を遂行しています。また、先ほど述べたように全国に展開していますので、つねにまとまることが難しい部隊だと思います。また、少人数で任務を遂行していくためにも隊員一人ひとりが自ら団結していこうという気持ちになることが大切になります。そういう意味で私は『一致団結』ということを挙げています。それぞれの部隊毎にまとまり、それがまとまった上で航空支援集団としてもしっかりと一致団結していきたいと思います。

―全国の支援機能を統合した組織の司令官ならではのご苦労ですね。

司令官　もうひとつは『自己鍛錬』ということです。精強な部隊を目指すとき、その骨幹になるのは人です。一人一人が強く逞しくなくてはなりません。「自己鍛錬」というとすぐ体力が浮かびますが、体力だけでなく知育、徳育、体育のバランスが必要です。支援集団はあまり規模的に大きくない部隊が全国に散ばっています。しかもそれぞれ常に任務を遂行しているので、みんなでまとまって、緒に訓練するというのがなかなかできないんですね。だから、それぞれ一人ひとりが自分で目標を作って、自分で自分を鍛えるということが非常に大切なことだと思うんです。上から言われて鍛えるというんでなくて、「自己鍛錬」ということで自分でちゃんと目標をつくって自分自身を高めていくと、そういう気持ちを隊員一人ひとりが持ってくれたらありがたいと思います。

―やはり海外等での業務が多くなりましたね、その中で航空自衛隊の第一線ですね。

司令官　そうですね。我が国の有事においては、航空総隊が主体となって活動し、航空支援集団は航空総隊を始め陸海空自衛隊の部隊活動の支援を実施します。その一方、平時においては航空支援集団の活動は主体的なものになります。今年の2月まで約5年間実施したイラク人道復興支援活動を始め国際緊急援助活動、国際平和協力業務等において海外における航空輸送等の様々な活動を実施しています。また、航空救難部隊は脱出した操縦者を救出することが任務ですが、その高い能力を活用して国内において災害が発生した場合の災害派遣による被災者・遭難者等の救助、あるいは急患輸送等を主に夜間もしくは悪天候下で実施しています。さらに、航空管制においては、自衛隊機のみにかかわらず民間航空機の管制の一部も実施しています。そういう点では、国民の皆様との接点の多い部隊とも言えると思います。

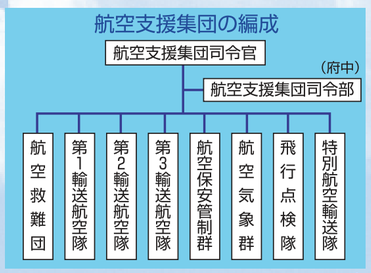
―今から益々任務が大変になると思います。

司令官　ひとつひとつ着実にやっていきます

―防衛ホーム新聞は、主な官舎でも読んで頂いています。ご家族の方たちに何かメッセーンをいただけますか。

司令官　航空支援集団の部隊は全国21箇所に展開し、二日24時間、一年365日休むことなく待機態勢や勤務態勢を維持しています。そのため、不規則で拘束される時間が多い勤務環境となっています。我々が任務を完遂していけるのは、隊員一人ひとりの仕事に対する高い誇りと、それに対する国民の皆様の御支援・御協力だと思います。この場を借りて心よりお礼を申し上げます。また、隊員は家庭サービスをしたい気持ちは強くてもあまり時間がとれないこともあるかもしれません。そういうところも理解して頂きながら、隊員と一緒になって良い家庭を作って頂き、今後とも御支援・御協力を頂ければ幸いです。

（聞き手　所谷尚武本社会長）



航空救難団

司令部は入間基地所在。「That others may live=他を生かすために」をモットーとし、飛行群・整備群・救難教育隊を有し、飛行群は10個救難隊と4個ヘリコプター空輸隊を持つ。

任務は、(1) 救難機による事故航空機搭乗員の捜索・救助 (2) 保有機による人員及び装備品等の空中輸送 (3) 救難業務及び空中輸送業務に関する教育・訓練であるが、災害派遣要請に応じる場合にも救難・輸送の専門的能力を発揮する。また、担当空域を戦闘機等が飛行している際は、救難機（捜索機と救助機）が緊急発進を行えるように待機任務に就いている。

海上訓練後の機体水洗

ヘリから降下前のメディック

U-125の整備風景

第１輸送航空隊

小牧基地所在。C−130H輸送機を運用しているのはここだけなので、イラク人道復興支援活動やPKO派遣等の際、目にする事の多い部隊。ほかに、KC−767空中給油・輸送機も配備。今年、飛行群及び第404飛行隊が新編された。

地上の誘導員と操縦士

空中給油機の中を座席用から荷物用に

C-130Hで沢山の荷物が海外に

第２輸送航空隊

入間基地所在。C−1輸送機とU−4多用途支援機を運用。国賓や内閣総理大臣等VIPの輸送を行う機会が多く、国際貢献任務の一環として人員・物資の輸送を伴う国外運航も行う。全国の航空自衛隊基地への定期便数は最も多い。

U-4の整備風景

C-1の整備風景

C-1への給油風景

第３輸送航空隊

美保基地所在。日本海側唯一の輸送機部隊。C−1輸送機、YS−11輸送機とT−400練習機を運用している他、輸送機と救難機等の操縦士及び航空士（航法士・空中輸送員・機上整備員・機上無線員）の教育も行っている。昨年の「鬼太郎マーキング」をしたC−1、YS−11、T−400はあまりにも有名。

YS-11の整備風景

待機中のC-1とYS-11

細かいところも入念に飛行前点検

特別航空輸送隊

千歳基地所在。政府専用機の運用で主として皇室及び政府要人の国賓等輸送を行っている。国賓等輸送時には予備機を含めて2機で運用。

客室乗務員も航空自衛官が行い、空中輸送員と呼ばれるが、輸送機の空中輸送員と資格は別である。

クウェートから戻ってきた政専機（平成21年2月）

初PKOの運航（平成15年）

ミールサービス中

航空保安管制群

百里の新管制塔

群本部は入間基地所在。隷下に15個の管制業務実施部隊、3個の飛行管理専任部隊、航空路図誌等を作成する飛行情報部隊と移動管制部隊。また、千歳・三沢・小松・小牧・美保の官民共用空港では自衛隊が管制業務を行う。

ただいま管制中

管制競技会

自衛隊航空路図誌の編集作業

航空気象群

気象データ収集

群本部は府中基地所在。群本部・気象業務隊・気象通信隊の他、18個の気象隊と3個の気象班が全国各地に点在している。各地の気象隊や米軍・気象庁・陸海自衛隊が観測した情報を気象業務隊に送り、航空気象情報を作成。その後、各地の気象隊に気象通信隊が配信。その情報を基に各基地で航空機の運航等を行う。

気象図等の作成

国内全般・国外活動地域の予想を検討

ブリーフィング

飛行点検隊

入間基地所在。防衛省全ての飛行場や航法用無線施設の電波等を点検する防衛省唯一の部隊。初度飛行点検・定期飛行点検・特別飛行点検・設置位置調査を、低高度・低速度から高高度・高速度まで様々な飛行の組合せで実施。雨天や夜間など航空機の周りが見えない状態でも安全に飛行できるように航法援助施設の精度の維持を担っている。

U-125の整備風景

最新鋭でも最後は隊員の手が命

YS-11FCとセオドライト測定器